

消えた街角:富岡畦草・記録の目シリーズ

昭和36年「昭和通り三原橋交差点」

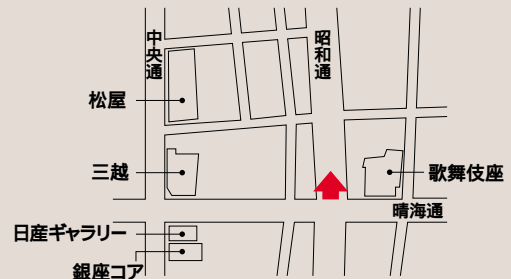


三原橋という橋は、今はない。慶長17年(1612年)江戸前島東縁に掘削された三十間堀に架けられ、数寄屋橋から築地に通じる、現在の晴海通りにあった。位置は、銀座四丁目交差点と昭和通りの中間くらいである。両側に店はあるが、半円状の脇道を裏へ回ると晴海通りの地下に映画館があって、橋下の感じが漂っている。

新橋堀と京橋堀を結ぶ三十間幅(55メートル)の運河は、昭和23年から27年にかけて埋め立てられ、昭和通りに三原橋の名だけが残った。

昭和通りは、その名のとおり、昭和5年3月に完成。関東大震災後の帝都復興事業の成果である。大正12年(1923年)の昼発生した関東大震災の復興事業は、内務大臣で東京市長を務めた後藤新平の卓見と熱意、担当行政指導者の正義感あふれる説得努力によって速やかに進捗したが、裏では、あまりにも壮大な計画だったため、「大風呂敷」と批判する声も強かった。

それでも、このときの思い切った都市改造が、今日の東京の存在を可能にしている点は見逃せない。広すぎると批判された昭和通りが、昭和30年代からの自動車交通量増加に応じきれず、二層式に造り替えられている事実が、都市計画の難しさを痛感させる。(昭和36年3月24日撮影)



撮影場所から交差点をわたってすぐのところ「歌舞伎座」がある。「歌舞伎」は傾く(かぶく:流行の先端をいく)という意味からきていて、この「歌舞伎座」は、明治20年代に竣工。戦時下の昭和20年(1945年)6月、大空襲により焼失したが、昭和26年(1951年)1月に復興した。そして、これまでに古典、新作問わず数多くの名舞台を送り出し、昭和63年(1988年)には開場百年を迎えている。古いビルが再開発の名のもとで、取り壊される今、建物を含めて伝統を守りつづけている「歌舞伎座」をあらためて評価したい。(平成12年9月4日撮影)

写真・文

富岡畦草(とみおか けいそう)

大正15年8月、三重県生まれ 日本写真協会、日本写真家協会、自然科学写真協会などの会員